

令和 6 年度第1回鶴見地域振興審議会議事録

1 開催日時 令和 6 年8月 23 日(金)14:00～15:00

2 場所 鶴見振興局3階 大会議室

3 出席者

委員:濱野 芳弘、磯部 幸二、大家 知子、芦荊 誠仁、成松 喜和子、野村 勇作

委員10 名中 6 名出席

(市職員等)

鶴見振興局:後藤 藤幸、赤峰 秀、米田 誠

政策企画課:出納 達也 計4名

4 議題

(1) 第2次佐伯市総合計画(後期基本計画)の令和5年度の実施に係る検証結果について

(2) その他 質疑・応答

5 議事録

事務局:ただいまから令和 6 年度第1回鶴見地域振興審議会を開催します。

開催に先立ちまして濱野会長よりあいさつ申し上げます。

会長:あいさつ

続いて振興局長(以下「局長」という。)の後藤からあいさつを申し上げます。

局長:あいさつ

事務局:審議会条例第 6 条 1 項の規定により、議長を濱野会長にお願いいたします。

会長:それでは審議に入りたいと思います。第二次の佐伯市総合計画後期基本計画の令和 5 年度の実施に関する検証結果について市長より諮問をいただいております。

それについて、事務局より説明を受け、皆さんに諮りたいと思います。事務局説明を。

事務局:最初にまず政策企画課の方から全体進捗管理及び検証結果について説明を申し上げます。

政策企画課:まず初めに第二次佐伯総合計画後期基本計画と、令和 5 年度の進捗管理進捗結果の概要について少しご説明いたします。総合計画とは、総合的かつ計画的な市政の運営を図るために策定した市の最上位計画で、将来における佐伯市のあるべき姿等進むべき方向について、基本的な指針を定めたものです。総合計画の計画期間につきましては、平成 30 年度から令和 9 年度までの 10 年間となっており、前期 5 年間、後期 5 年間となっており、現在は令和 5 年度から令和 9 年度までの後期基本計画の期間となっております。お手元にお配りしました資料 2 と書かれた資料、これは総合計画後期基本計画として資料の中に赤字で記入してるアルファベット等の数値はが令和 5 年度の進捗状況と評価を市役所庁舎内で検証したものです。鶴見地域の

部分は 77 ページから 78 ページまでです。この後、調書等を確認しながら、令和 5 年度に実施した鶴見地域の取り組みを評価していただきたいと思います。総合計画の構成としましては、例えば、77 ページを、ご覧になっていただきたいと思いますけど、まず現状と課題がありまして、その次に、これからの基本方針があります。鶴見地域では、3 つの基本方針を定めており、次にその方針を具体的に実施する主な取り組みを記載しています。最後に、これらの取り組みの結果を数値的に関わるものとして、目標指標を記載しております。鶴見地域では、2 つの目標指標を定めてありまして、基準値から最終年度の令和 9 年度までに、ご覧のような目標に達することを、目標としております。これが施策の構成となっております。以上が総合計画、工程と資料の見方になります。次に総合計画の進捗管理について説明いたします。右上に資料 1 と書かれた資料をご覧ください。総合計画の進捗については、さいき創生マネジメントサイクルにより、毎年度、進捗状況の検証を行い、適正に進捗管理していくこととしています。本日の会議につきましては、令和 5 年度の事業の完了に伴い、各政策施策の検証をしていただくものであります。また、本日の検証等につきましては、図で示しております。PDCAサイクルの赤い線で、囲った白抜きの部分となっております。次に本年度の検証のこれまでの経過について説明いたします。3 の庁内の検証体制について(1)に記載の通り、まず、各担当課長メンバーとした、佐伯市総合計画本部会議検討部会を、7 月 1 日から 3 日までの間、開催しました。その結果を踏まえて、2 ページの(2)ですね、市長以下、部局長をメンバーとする総合計画本部会議を 8 月 21 日に開催しまして、佐伯市としての内部評価を決定いたしました。その内容をお手元の資料等、取りまとめております。本日はこの内部評価の結果につきまして、地域振興審議会に諮問させていただき、ご審議いただきたいと考えております。次の 4、評価対象と 5 の検証資料について内容については説明を省略させていただきます。次に 3 ページの 6、一番下の 6、今後のスケジュールについて説明いたします。8 月、下旬から 9 月中旬にかけて、各地域振興審議会と、総合計画審議会において、検証結果報告をいたします。9 月下旬には、市議会に対して報告し、あわせて、市民の皆様に対しましても、市のホームページ等により公表を行います。また、これらの結果等と並行しまして、市の内部においては、今回の検証結果を、参考に、来年度、令和 7 年度の市の事業の基本的な方向性を示す総合計画実施計画を策定し、その指針を反映した令和 7 年度の当初予算編成に手する予定となっております。以上が総合計画の進捗管理の概要です。次に同じ資料 1 の 4 ページ。令和 5 年度の進捗管理に係る評価結果の概要、について説明をいたします。まず 1 の全体評価について、これは令和 5 年度の総合計画全体の進捗状況の評価であります。内部評価においては、A から D までの評価区分のうち、A 評価。順調に推移しているとの評価をしております。次に、個別の評価ごとの結果を見ますと、2 の施策評価の(1)の主な取り組みが、全 998 件の実施状況があるんですけど、全体として、評価、順調に推移とされた項目数の割合が、111 項目、56.1%。B

評価、概ね順調に推移が 71 項目、35.9%と合わせて 92%となり、順調に実施されております。次に、1 ページの下段から 2 ページの上段にかけての(2)目標指標、の進捗状況についてですが、これが全部で 108 指標ございます。全体として、A評価とされた項目の割合が 57 指標で 52.8%。B 評価が 19 指標 17%、合わせて、74 指標、70.44%となっておりますが、C評価がやや遅れているが 19.4%21 指標で評価が遅れているものが、11 指標の 10.2%となっており、一部については遅れが生じた施策もありました。次に、(3)の総合評価をご覧ください。これは先ほどご説明した、主な取り組みの実施状況と目標指標による評価。それから、政策 7 つ創生、地域活性化分野については、重点プロジェクトの実施状況を踏まえ全 50 施策についてそれぞれ総合的な評価を行ったものであります。全体としては、A 評価が 26 施策、50%、B評価が 22 施策 42.3%、合わせて 92.3%と順調に推移しているものと評価しております。これにより、このページの一番下の 3 の政策評価、これはいわゆる 7 つの創生の評価であります。政策 5 の産業振興についてはB評価。その他の政策につきましてもいずれもA評価としております。以上、これらを総合的に判断して資料 1 の 4 ページの一番上の全体A評価とした次第であります。各政策、施策の詳細な評価は後程お手元の先ほどの後期基本計画とか、資料 3 の方をご覧ください。以上説明を終わります。

事務局:全体的な政策評価については以上です。質疑は後でお伺いいたします。続いて私の方から鶴見地域の取り組みについてご説明します。横長のこちらの資料で行いたいと思います。令和 5 年度の鶴見地域の取り組みについて、鶴見地域は、3 つの基本方針あります。まず基本方針アの子供から高齢者まで誰もが暮らしやすい新たなコミュニティの創出ということで、掲げております細項目の(ア)次のページですね。コミュニティセンターを拠点とした持続的持続可能な地域活動支援ということで令和 5 年度は、体制づくりということで、コミュニティ組織づくりへ向けた協議会準備等の会議体を 14 回実施しておりまして、令和 6 年 3 月 16 日に協議会を設立しております。もう 1 つの取り組みとして地域のにぎわいづくりということで、設立式典の同日に鶴見春の海野春祭りを開催しております。3 月 16 日の 10 時から 14 時、あまべ商工会前で、鶴見テラスさんやAコープさんなどの地域の商店 13 店舗に出店していただきました。来場者は 1000 名でした。続きまして次のページ、(イ)として地域コミュニティの活性化を図るため、元気な高齢者団体の活動を支援する取り組みとして、昨年度は 2 つの象徴的な事業を実施しました。持続可能な離島支援ということで大島の買い物支援事業を行っております。大島の方は高齢化率実に 80%を超えております。超高齢者地域です。大島にありました田の浦農協という商店が閉店したため、買い物難民が増加したことを受けまして、社会福祉協議会の鶴見支部、地元スーパーのAコープさん、そして有償ボランティアの団体鶴鶴クラブと連携しまして令和 5 年 6 月から買い物支援事業を実施しております。続いて地域内循環経済圏構想ということで、大島以外に

もやはり鶴見地域において高齢化深刻であります。そうした高齢者や生活弱者をどう支援していくかというところで鶴見ご用聞きプロジェクトを昨年の 9 月 28 日に発足させました。現在高齢者世帯を中心に健康確認と、買い物代行サービスを昨年 11 月から始めております。続きまして(ウ)、小規模校の特色化した地域教頭の子育て環境づくりの促進であります。やはり鶴見といえは魚です。サカナの教育。サカナを広く、鶴見で揚がるサカナを広く知ってもらうためのイベントを番匠おさかな館と連携して行いました。また未利用魚を活用したフィッシュ&チップスの試食会等を魚の教育事業として取り組んでおります。そして、もう 1 つ、鶴見のカルチャーでありますソーラン節なんですね。ソーランを根づかせる取り組みとして、松浦小学校と話し合いを続けまして今年から、松小ソーラン復活をできるような形につなげることができました。以上が基本方針のアです。続いて基本方針イです。海を生業にできるまちづくりということで、7 ページの施策の(ア)若手後継者育成のための就漁支援ということで、地域課題解決プロジェクトチームを編成しまして漁業関係者、農業関係者等で編成し、会議体を計 10 回行いました。人口減少、労働力の減少、また遊休農地といった課題を地域リソースで解決できないかというところから議論を重ね、若手の水産事業者が遊休農地を利用した果実栽培に参入する足がかりにつなげました。続きまして 8 ページ(イ)。県下最大の水揚げ誇る鶴見の魚介類のブランディングを確立し、商品価値を高める取り組みということで海底熟成酒後方支援を行いました。具体的には別府大学と連携した味覚嗅覚の成分分析を行っております。また、メディアPRなどの支援を行いました。次に、魚介類のマネタイズというところで、魚を売る以外の方法でお金を得るという方法を考えていこうということで、ずっと鶴見市場で水揚げされた魚介類の写真を撮影しております。約 250 から、300 近く集まっておりますが、それをういたお魚カレンダーやシールの製作をして、鶴見地域、鶴見市場産の魚の販促等に活用しております。また、実際の写真データも昨年度山口県の宇部市に 8 種類。データの使用权として販売した実績もございます。最後に、SNS戦略ということで、Instagram、TikTokを中心に鶴見の魚介類等の情報発信を積極的行いました。SNS総フォロワー数は昨年度末時点 2656 人というところまできております。続いて 9 ページの、鶴見の魚介類を利用した食や特産品開発の支援ということで、大分県漁協とコラボして鶴見市場直送水曜市を通年計 47 回実施しております。JFの直営店トキハわさだタウン、明野アクロスで開催しております。もう 1 つは飲食店のコラボということで、鶴見地域飲食店とうまいもん通りの飲食店が連携をして、鶴見市場に上がった旬の魚介類や、産物を使用した食のフェアを計 4 回、通年を通して行っております。次に主な取り組みのウ、ありのままの鶴見の半島を味わう観光ということで、11 ページの(ア)歴史と自然をありのままということで、自然と融合したイベントを行っております。1 つは、自然と融合するイベントとして鶴見スターライトシアター、星空観測するイベントを 12 月 4 日に行いました。もう 1 つは、鶴御埼灯台周辺の遊歩道を生かした犬が主役の

イベント。鶴見海山リトリートを3月3日に開催しています。次に歴史とアートとの融合ということで昨年度の集大成といえるイベント。ナイトミュージアム丹賀を11月23日から1週間、延べ853名の入場者ございました。これは内外から非常に高い評価を受けました。続いて12ページの、鶴見豊魚祭を継続するという取組です。令和5年度は4年ぶりとなる豊魚祭を9月26日に開催することができまして約1万人の来場がありました。ここに、毎年できなくていいと書いてますが、イベント予算や人員などのリソースがどんどん縮小される中、毎年開催できなくても2年おきでも継続して事業を行っていくというふうに考えております。ここまでの取り組みに対するという表紙取り組み評価が14ページに書いております。ものすごく自己肯定感の高い評価です。オールAということで、自己評価させていただいております。昨年度は、鶴見らしいというか新しい独自性のある企画にどんどんチャレンジをして、それを具現化したことを、評価しております。15ページ。これが目標指標で鶴見が2項目、新規事業参入及び業態転換漁業者数の増加とし食と観光の連携による誘客数ということで掲げております。実績としては漁業者が3者増の11者。観光の誘客数としては年間3万1000人の目標を4万4725人ということで目標を大きく上回ったと考えており、これもA評価をつけさせていただいております。引き続きまして、重点プロジェクト17ページ。人にやさしいまちプロジェクトということで、昨年度はコミュニティ組織が誕生した場合に担えるソフトウェアといいますか事業を構築してまいりました。買い物支援もそうでありますけども、そういった事業を持続可能な形にしてコミュニティ組織に引き継ぐための礎はできたと思います。今年度から緩やかに、事業を移管しているところでございます。次にサカナ。サカナの教育というところで、鶴見市場のサカナの認知度普及活動をやってきましたが、今年度から本課の水産課の方に移管して、やっていくということにしております。続いてソーランをカルチャーにする取組の中で、松小ソーラン復活という結果が残せました。ソーランをとおり地域を深く知るという活動ができたと考えています。次に18ページの漁業のまちみらい創生プロジェクトということで、まとめますと、先ほど言いました、JF直営店での水曜市、特産品開発としては、海底熟成酒の後方支援を行って参りました。また、地域課題解決プロジェクトチームは、昨年度である程度の結果を見たということで行政主導を終了します。引き続き水産事業者の業体転換とか、新しい事業への参入は、昨年度同様行っていく所存です。次に19ページの、ありのまま鶴見味わいプロジェクトということで、観光施策です。ありのままであり続けると、一昨年、令和4年度に作成した、鶴見のコンセプトブックで掲げたコンセプトに則って、自然、戦争遺構、アートが融合した誘客イベント等、独自性の強い企画を打っています。そして、SNSで積極的な情報発信しています。魚の食まつりは通年で行っています。という形で、大きなパイではないですが、マスではなく、ニッチで深いファンふやす活動をこれからも行ってまいります。ということで重点プロジェクトの評価も、自己肯定感高く評価させていただいております。最後に、21ペ

ージ総合評価も同様として、Aということにさせていただきました。昨年度は、目標指数を上回る成果を残すことができましたし、振興局という限られたリソースで、どこまでやれるかチャレンジして地域の人の多大な支援をいただいて、福祉、農業振興、水産振興、観光等、様々な分野で地域の資源だけで実現できたと自負しています。今後も鶴見らしく独創的な地域づくりを続けていく所存であります。以上が鶴見地域の令和5年度の取組に係る検証結果に関する説明でございます。

会長: それでは、質問とご意見をお伺いしたらいいんですが、どうでしょう。今は本庁の出納さんの方から説明した分等を、振興局の皆さんから説明して分けますかそれとも一括でいいですか。

芦荻委員: 主な取り組みの 9 ページの(ウ)の鶴見の魚介類を利用した商品開発等の支援の中で、飲食店のコラボ、フェアを開催していただけてすごく好評ということなんですけど。このフェア自体の宣伝とかテレビメディアも来たりしてるんですけど、ポスターとかよく張られてるんですけど、これは、どこまでやってるんですかね。結構、佐伯市以外のところから、他のところには宣伝しないのって聞かれたことがあるんですよ。佐伯市内だけでやってるのみたいな感じで。

会長: 情報発信の範囲についてですね。

事務局: 佐伯市内と延岡です。延岡市役所と延岡観光協会。今のところその範囲です。豊魚祭は、県内中に PR するんですが、フェアは延岡だけですね。

芦荻委員: 、他市の道の駅とかそういうところにポスターを貼っていいんじゃないかとかそういう意見も聞いたもんですから、佐伯の中でじわじわとやりたいっていう考えもあるかもしれないですけど鶴見に行きたいっていう人、こんなやってるんだっていう情報を探してる人達もいるみたいなので、できればそういうところも、県内に発信できたら、いいんじゃないかなって思います。

会長: これはどこまで支援しているのですか。市としてはどういう関わりをしたのですか。

事務局: PR用のポスター制作、それと上り、ももたろう旗、フライヤー、三角POPを作って、それをセットにして、飲食店さんに提供しています。

会長: 食材の魚介類の便宜を図る等はしてないのですか。

事務局: はじめは料理写真撮影のときに食材を提供していましたが、今はもうしてないですね。食材を用意して、メニュー開発していただきって言った時期もありますが、今は食材を提供して開発していただきっていうのしてないです。

会長: 情報発信するための、広告デザインがメインということかですね。ほかにありませんか。特に、大島の支援。これが生きる術。買い物支援、大変喜ばれている。

磯部副会長: 買い物支援も船のキャパが知れてくるので、あまり多く詰めない。最近、アイスがい

いとか。クーラーかなんかで運んでいるのですか。

事務局:20リットルのクーラーを使っています。

磯部副会長:数人ならいいけど、段々多くなってきたら大変ですね。

会長:高齢者はそんなにアイスを食べたいのですか。

事務局:流行って(アイスクリーム)しまつて、量が増えています。アイスと冷食がですね。

成松委員:アイスを食べたいけど、バスで持って帰れないし、人に頼んでもすぐ溶けるし、配達してくれるのならと言って、持っていくたびにアイスの量が増えています。

局長:特に暑いですからね。

成松委員:やっぱ、ばあちゃん達もアイス食たいんやなと思って。もう何でも持ってきてって言う書いてる人も多いです。何でもいいって言われても選ぶの難しい。溶けにくいようなのを選んだりしています。

会長:これは何か手立てはないのですか。

事務局:今は保冷バックと大島のほうは、一応充電してバッテリー式で、2 時間ぐらい持つような20 リットルのクーラーを使っています。それにアイスばかり詰め込んでるようです。ご用聞きの方は冷凍庫。車のシガーソケットに繋ぐタイプ。それ以上にアイスの需要がある。

成松委員:1 人が、カップアイスを 10 個とか一遍に 1 週間に 1 回ある。

会長:そのような需要に応える方法はないですか。

事務局:可能な限り、リクエストには応えたいです。

成松委員:でも大きな冷蔵庫を車に付けるとほかの物が乗らなくなる。最初は、1 件が 5 個とか 6 個ぐらいしか品数もなかったけど、近頃は小さいものから大きいものまであります。20 個ぐらいある人もいるし、それをまた保冷を常温と冷凍において分けています。

局長:現状はどうなんすか。大体何とかいけてる感じですか。

成松委員:今はね。最初は全部袋詰めにしたら、いけるんやけど袋詰めにしたら、名前を貼ったりとか、めっちゃ時間かかるんで。今もう 1 件1かごにしているんですけど、結構、商品の仕分けに時間がかかるんです。

局長:なかなか最後に仕分けという作業は大変ですよ。

成松委員:A コープの中で、かなり仕分けはしていくんですよ。ただ、段々と品物が増えてるんで。車の後ろのほうは箱物のジュースとか水とかビールとかがずらっと並んでます。

局長:事業として困ってる方の手助けになるっていうことは大変いいことだと思うんですけどやっぱそういった運搬面とか、そういった部分をまた今後事業規模が拡大した場合は、いろいろとまた協議をして行く必要がありますね。

成松委員:車に、車に半分以上棚を作ってって言うてるんですよ。そうしたらもう少し積める

ようになる。

磯部副会長:助ける人が困ってしまいますね。

成松委員:でも、ありがとうって、めっちゃ見える。言われるんですよ。もう免許がねえなっただけと買い物して帰ってもバス停から家までは重たいものは運べんし。

会長:一人暮らしはやたら話たがろう。大丈夫ですか。あんまり話しとつたらなあ。でも、もうそういう高齢者を見捨てるわけいかんし。

成松委員:行政がこれやめますよ。ってなると移動販売を構えてやっていかないけんかも。でも家まで配達せんといけんので坂の上まで引っ張って持っていかんといけん。

局長:またそうですね。ちょっと、もう皆さんから案を出していただいてですね

事務局:いずれは受益者負担という形で、利用者から、お金もらう形で運営していきたい

成松委員:中には配達代を払うって言っている人もいる。

事務局:サービスを平準化し同じサービス届ける。受益者の顔見に行って話を聞いて帰る、そして届けるっていうサービスでどの地域もいけるようにしたいし、将来的にはコミュニティ協議会が主催してできるようにしたい。

成松委員:去年の11月から始まって、夏がこんな厳しいとは思わなかった。

会長:みんな厳しい。

成松委員:みんな厳しいんやけど、こんなに厳しいと思ってなかった。

大家委員:成松さんが1人で運転して1人で商品をまとめてという形でやっているのですか。

成松委員:前は自分が1人ずつの集めてやってたんやけど、今はAコープさんが大体集めとってくれる。それをもう好みみたいものが、もう大体わかるんで、あと残ってる人これはこっちとかで入れ替えて、点検して、レジ通してしてみたいな。

大家委員:すごいですね。

成松委員:(自分が)病気とかできんというか、変わりがおらんので

会長:それ(代替要員)も考えていかんとなあ。

成松委員:葵ちゃんがどうしても駄目なときは配達しますよとは言ってくれるんだけど。注文取りは全部葵ちゃんが行ってくれるんやけど、注文のない人の家にもたずね歩いてくれよん。

事務局:安否確認というか、健康モニタリングも事業の一環なので、生きとるんって

成松委員:葵ちゃんは安否確認の家に全部行くけど、私はもう注文があったところだけしかいかんけ。葵ちゃんのほうがおばあちゃんたちとよく話をすることになる。

磯部副会長:変わりがおらんとことはいろいろ手引きを作ってかなきゃいけない。

これがこのおばあちゃんの状態なんですよみたいな、今までのデータを整備するというのも考えていかんと。それをやっとならば、交代したときにも、なんてことないよっていうところまで用意しと

けばいいですね。

成松委員:中でも最近2人ほど姿を見らん人がおで入院したのか施設に入ったのかとか

会長:それこそそういうときには、区長に力を借りてそういう情報を入れてもらうとか

成松委員:それは、葵ちゃんが行っておらんのもよって言ったら、仲のいいおばあちゃんが入院してるんよとか教えてくれる。

会長:買い物支援はぜひ継続していただきたい。話は変わりますが、おさかな大百科、あれは評価が高かったですね。

芦荻委員:関連して、もう私もいろんなところ行ったら、おさかな大百科の評価が一番高くてその話はよく出るんですね。あれが第2弾ですね。だから、もし、その第3弾も今、構想とかがあのか、それとあれだけクオリティの高いものですから、今後うまく使って鶴見地域のために何かできないか振興局で構想はあるんでしょうか。

事務局:カレンダーは去年作りましたが、あまり部数は作ってません。基本は知的財産で、写真自体が売れるのが一番いい。

磯部副会長:うちも広報媒体としていろんなところに訪問してから渡している。これはすごい好評やけど、これを無料にしようっていいんですか。

会長:これ、対価を取ったらどうなんですかっていう話だからこそ広がったかもしれない。

事務局:これは県の補助金を使った関係で、値付けをして販売できない制約がありまして、地域のPR目的で作ってる。

芦荻委員:大百科の中に、鶴見のことは魚とか漁法とかですね。他の鶴見の地域のこととか、そういうことは載せて載ってなかったですね。

事務局:載ってない。魚に関する情報に特化している。

芦荻委員:もし仮に第3弾を作るのであれば、何かそういう鶴見のまた別の角度から見て、丹賀砲台とかもありますし、なんかそういうのを載せて、鶴見のアピールもそこに入れば、またちょっといいんじゃないかなとは思いますが。とにかく大百科は、どこに行っても褒められます。

成松委員:この時期には、この魚が獲れますとかを写真で載せるとか。

事務局:近々、佐伯のおさかな大百科になる可能性があると思いますけど。とはいえほとんど鶴見市場に揚がる魚になってしまうんですけど。

会長:佐伯の市場はいずれなくなるんですか。

事務局:現状では方向性をお示しすることはできません。

会長:そのほかございますか

成松委員:豊魚祭は2年に1回なる方向でいいの。

事務局:はい。佐伯市で魚にまつわるイベントが3つございまして、3つが順繰り順繰りにするよ

うな、お金を集中させて、一本化しようという流れです。

会長：そういう流れになるのですね。歴史的にも豊魚祭が県下で一番の魚のイベントです。ぜひ存続してもらいたい。では、よろしいですか。意見が出ました。それでは、この審議会について、この鶴見の評価はA評価ですが、この全体的に市の 92、3%の事業は順調にいったるということでもありますので、どうでしょうか。この検証結果が適当であり承認するっていうことでよろしいということであれば、挙手をお願いします。

委員：全員挙手

会長：ありがとうございます。それでは承認いたしました。

今もう話が出ましたけど、この他にも何が意見等ございますか。

委員：なし

会長：特になしということですので、これで第 1 回の鶴見地域振興審議会を終了いたします。みなさんありがとうございました。